

特集「待ったなし！」町の財政 を圧迫しかねない 92の公共施設

時代の変化に対 応した運営に期待

当町の公共施設については、平成27年3月に策定された小川町公共施設等総合管理計画により、平成27年度から令和26年度までの30年間、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行い、財政的な負担軽減・平準化・最適な配置を実現することになっています。

このページでは、注目度の高い公共施設をピックアップ！ ぜひ、ご一読ください。

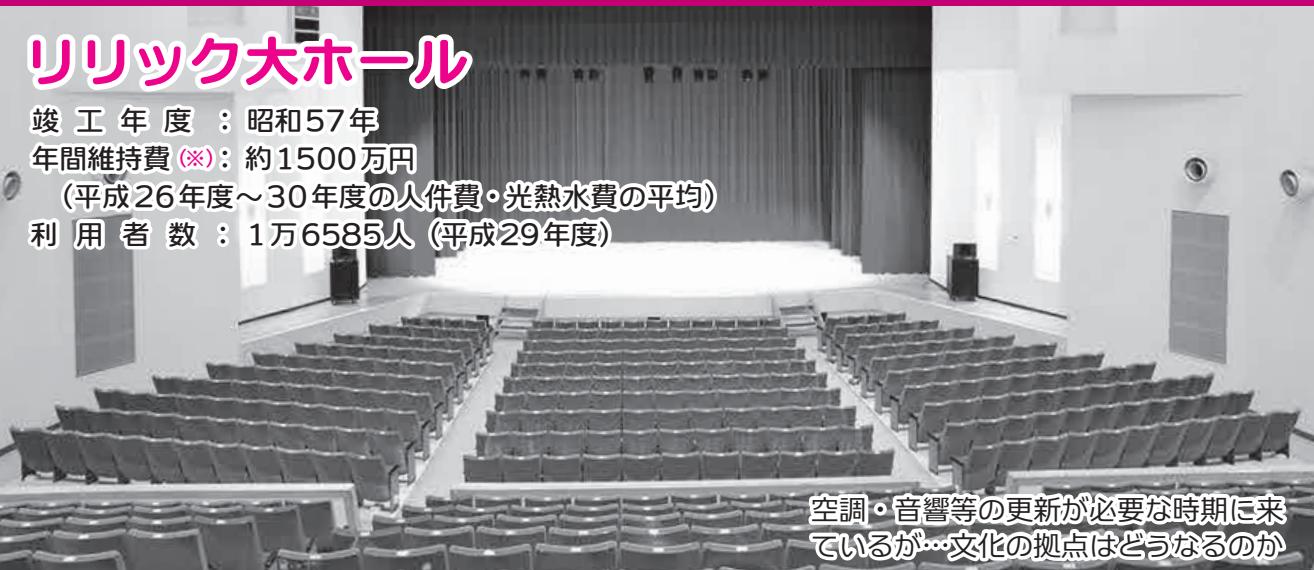
公共施設等総合管理計画の基本方針

- ①施設量適正化の推進
- ②長寿命化の推進
- ③適切な施設配置と民間活力導入の促進

議会が注目した4つの公共施設 維持費と利用状況

リリック大ホール

竣工年度：昭和57年
年間維持費（※）：約1500万円
(平成26年度～30年度の人件費・光熱水費の平均)
利用者数：1万6585人（平成29年度）



空調・音響等の更新が必要な時期に来ているが…文化の拠点はどうなるのか

町立保育園（3園）

将来の年少人口の推移を見据え、民営化や複合化ができるのか

竣工年度：昭和58年～平成2年
年間維持費（※）：約2億6800万円
利用者数：5万4909人（平成30年度）

（※）年間維持費については、人件費を平成27年度～29年度の町職員平均単価により、施設運営及び維持管理に携わる人数を乗じて算出しているため、決算額とは異なります。

学校給食センター

設備が老朽化しているため、新しいメニューの考案に支障が出ている

竣工年度：昭和55年
年間維持費（※）：約1億4600万円
総食数：36万2123食（平成30年度）

埼玉伝統工芸会館

「和紙による活性化」の拠点にするためのリニューアルが本当にできるのか

竣工年度：平成2年
年間維持費（※）：約4800万円
(指定管理費等)
利用者数：約3万9000人（平成30年度）

5つの課題と議会が質す6のこと

課題 少子高齢化・人口減少・利用者の減少・税収の減少・維持費の増大



公共施設総量（面積）に対する負担額

92の公共施設は、「社会・福祉施設、子育て支援施設、学校教育施設、公営住宅、行政施設、供給処理・公園施設」に分類されています。下のグラフは、30年間で公共施設総量を40%縮減した場合の負担額を示したものです。

